

めぐみイエス・キリスト教会

2021年3月21日(日)第Ⅲ主日レント礼拝
週報「通算第549号」



2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌209「いつくしみ深き」 p. 316

【交読文】 No.5 詩篇第19篇 p. 882

【賛美Ⅱ】 新聖歌399「この身の生くるは」 p. 638

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル賛美No.1「ビジョン」

【聖書朗読】 使徒の働き9章1節～9節(新約p. 250)

【礼拝説教】 《ダマスコ途上にて》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

◎本日の聖書箇所【使徒の働き9章1節～9節】

9:1 さて、サウロはなおも主の弟子たちを脅かして殺害しようと息巻き、大祭司のところに行って、

9:2 ダマスコの諸会堂宛ての手紙を求めた。それは、この道の者であれば男でも女でも見つけ出し、縛り上げてエルサレムに引いて来るためであった。

9:3 ところが、サウロが道を進んでダマスコの近くまで来たとき、突然、天からの光が彼の周りを照らした。

9:4 彼は地に倒れて、自分に語りかける声を聞いた。「サウロ、サウロ、なぜ私を迫害するのか。」

9:5 彼が「主よ、あなたはどなたですか」と言うと、答えがあった。「私は、あなたが迫害しているイエスである。」

9:6 立ち上がって、町に入りなさい。そうすれば、あなたがしなければならぬことが告げられる。」

9:7 同行していた人たちは、声は聞こえてもだれも見えないので、ものも言えずに立っていた。

9:8 サウロは地面から立ち上がった。しかし目を開けていたものの、何も見えなかった。それで人々は彼の手を引いてダマスコに連れて行った。

9:9 彼は三日間、目が見えず、食べることも飲むこともしなかった。

●ポイント1. 【ダマスコ(ダマスカス)】とは？

■ダマスコ シリヤ地方の中心地。ヘルモン山の東方、アンティ・レバノンの南東を流れるアマナ川とパルパル川の流域にある。その一帯はナハル・バラダと呼ばれるオアシスになっている。パレスチナ南西部から北東に向かう大路と、ヨルダン川の東を南北に走る「王の道」の合流地点であり、商業的にも軍事的にも非常に重要な場所であった。新約時代、ローマの管理下にあったダマスコにはナバテヤ王国のアレタ4世が遣わした代官がいた。パウロはこの町に赴く途上で復活のキリストに出会った。有名な「まっすぐ」と呼ばれる街路は、町のほぼ中央を東西に貫いている。

●ポイント2. なぜ「ダマスコ」なのか？

※使徒の働き8章1節「サウロによる教会への迫害」 (新約p.248上段)

8:1 サウロは、ステパノを殺すことに賛成していた。その日、エルサレムの教会に対する激しい迫害が起こり、使徒たち以外はみな、ユダヤとサマリアの諸地方に散らされた。

※使徒の働き22章12節～13節「最高議会での証言」 (新約p.281下段)

22:12「すると、律法に従う敬虔な人で、そこに住んでいるすべてのユダヤ人たちに評判の良い、アナニアという人が、

22:13 私の所に来て、側に立ち、『兄弟サウロ、再び見えるようになりなさい』と言いました。するとその時、私はその人が見えるようになりました。」

●ポイント3. なぜ「三日間」なのか？

※第 I コリント15章3節～9節「使徒パウロの証しから」 (新約p.349下段)

◎先週のメッセージの概要【エチオピアの宦官のバプテスマ】

《「お尋ねしますが、預言者はだれについてこう言っているのですか。自分についてですか。それとも、だれかほかの人についてですか。」

エチオピアの宦官が、イザヤ書53章に書かれた預言が、自分に降りかかることを恐れていた事が分かります。ピリポは口を開き、この聖書の箇所から始めて、主イエス様の福音を彼に伝えました。すると道を進んで行くうちに、水のある場所に来たのです。「見て下さい。水があります。私がバプテスマを受けるのに、何か妨げがあるでしょうか。」

次の8章37節は割愛されていますが、別の写本による異本では、『そこでピリポは言った。「もしあなたが心底から信じるならば、よいのです。」すると彼は答えて言った。「私はイエス・キリストが神の御子であると信じます。」』と、言う文章が挿入されています。

宦官は馬車を止めるように命じ、ピリポと宦官は二人共、水の中に降りて行き、ピリポは宦官にバプテスマを授けたのです。今回は、聖霊も降られました。それは、主の霊が来られ、ピリポを一瞬にして他の場所に移された事、宦官が喜びながら帰って行った事から、明白な事実と言えます。

その後、ピリポはアゾトに現われたとあります。アゾトとは、旧約時代におけるペリシテ人の町アシュドデのことです。「すべての町を通過して」とは、かつてのペリシテ人の5大都市のことを指しています。

それからピリポはカイサリアに行き、そこに定住し教会を立てあげます。ピリポはそこで所帯を持ち、四人の娘たちが生まれるのです。さて、なぜこの出来事が「使徒の働き」に記されているのかと言いますと、それは、二十数年後にルカとパウロがカイサリアに行き、ピリポの家に長い期間にわたって世話になるからです。その後、ルカが福音書と使徒の働きをローマで執筆した時、その時点でも宦官は存命していたと思われま。それゆえ、彼の名前が伏せられているのです。なぜなら、その宦官を通して、エチオピアに大きなリバイバルが起こされたからです。》

◎お知らせ

※次回受難週の礼拝は2021年3月28日(日)教会において行ないます。聖書勉強会と祈り会は、3月24日(水)各家庭において行ないます。